

# 第3学年 学級活動指導案

平成30年10月4日(木) 5校時

3年3組 33名

指導者 T1

T2

- 1 題材 好き嫌いをせずに何でも食べよう。  
活動内容(2) エ 食育の視点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

## 2 題材について

### (1) 児童の実態

本学級の児童は、明るく素直で何事にもこつこつと取り組む児童が多い。調理場が併設されていることもあり、だしの良い香りを感じたり、調理中の様子を見たりするなど給食に意識が向きやすく、「お腹すいたなあ。」「今日の給食は何だろう。」と心待ちにしている。また、給食を日記の題材にすると「阿波ぎゅー混ぜご飯が食べたいな。今度はいつ出るのかな。」「今日の給食のそぼろご飯は、おいしくてあっという間に食べたよ。」と給食を楽しみにしていることを感じる。しかし、その反面、嫌いな食材も多く、筍やゴボウなどの根菜を使ったものやしいたけやグリーンピースが入ったメニューになると、配膳後に量を減らしてほしいと言う児童が多い。1学期当初は学年が上がって給食の量も増えたことも重なり、残食の量もかなり多かった。そこで、少しでも好き嫌いを減らし、食べてみようという意識を高めることで、食べるのが好きな子どもたちを育てたいと考えた。

### (2) 題材設定の理由

心身ともに健康な体を作るためには、好き嫌いをしないでバランスよく食べることが重要である。現在では様々な食べ物が出回っており、栄養不足は少ないように思われる。しかし、家庭の食事が子どもの好みに合わせたメニューや味付けであったり、好きなものだけ食べて嫌いなものには手をつけないといった食習慣が身に付いてしまっている傾向が見られる。毎日の生活で、給食の盛り付けや配膳、箸使い、給食に使われている食材を知ること伝えるようにしてきた。また、教室やワークルールの掲示も工夫し、給食への意識を高めてきた。その結果、少しずつではあるが残食量も減少してきており、「大きい筍だけ減らして。」と言う児童も出てきた。

本時では「食べ物の3つのグループの働き」を理解させ、好き嫌いせずにバランスよく食べることの大切さに気付かせたい。そして、毎日の食事に興味・関心をもたせ、健康な体を作る意欲を高めていきたい。

## 3 評価規準

よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能	集団の一員としての話合い活動や実践活動を通じた思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全といった、自己の生活上の課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解するとともに、そのために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	自己の生活上の課題に気付き、多様な意見を基に、自らの解決方法を意思決定し、実践している。	自己の生活をよりよくするために、他者と協働して自己の課題の解決に向けて粘り強く取り組んだり、他者を尊重してよりよい人間関係を形成しようとしたりしている。

## 4 指導にあたって

事前の指導	事前アンケートをもとに自分の生活を振り返らせるとともに、自分たちで給食のメニューを考えさせる。
本時の活動	好き嫌いをしないでバランスよく食べることの大切さについて理解し、自分に合った具体的なめあてを決め、解決の方法を考えさせる。
事後の指導	自分の決めたことについて実践させたり、振り返らせたりする。

5 本時

(1) 目標 食べ物の3つのグループとその働きを知り、嫌いなものでも少しずつ食べてみようという意欲をもつことができる。

(2) 活動計画

学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
1 本時の学習課題をつかむ。	・本時の学習への興味・関心をもたせる。	
3年3組のスペシャル給食を考えよう。		
2 食べ物は3つのグループに分かれることを知る。	・食べ物は3つのグループに分かれることを知らせる。(T2) 赤・・・血や骨・肉になって体を作るものになる。 黄・・・エネルギーのものになる。 緑・・・体の調子を整える。 ・自分たちのメニューでは栄養のバランスが取れていないことに気付かせる。(T1)	・食べ物の3つのグループとその働きについて理解している。(知識・技能)【発言】
3 本日の給食を確認する。	・給食では3つのグループが組み合わせられ、栄養バランスのとれた食事であることを確認する。(T2) ・嫌いなものを食べなかった場合どうなるかについても考えさせる。(T1, T2)	
4 グループごとに、健康な体を作るための給食のメニューをもう一度考え発表する。	・自分たちが考えたメニューに3つのグループがそれぞれ入っているか確認する。(T1, T2)	
5 話し合ったことを参考にして、自分のめあてや実践方法を決める。	・話し合いをもとに、具体的なめあてや実践方法を決めてワークシートに記入するようにする。	・自分に合った具体的なめあてや食べ方を決めている。(思考・判断・表現)【ワークシート・観察】

(3) 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	食べ物の3つのグループとその働きを理解し、何でもバランスよく食べようという意欲をもつことができる。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な方策	食べ物の3つのグループとその働きを知り、バランスが悪いと健康に弊害が出ることを伝え、好き嫌いせずに食べる必要性を感じ取らせる。

6 他教科との関連

○体育科の保健領域「毎日の生活と健康」などの学習内容と関連させて、健康な生活を送るために食事が大切なものであるということを再確認する。